



# ジュネーブ便り 第4回

IMF本部造船／事務技術職部門担当部長

松崎 寛

## スイスの教育制度と学校生活

ジュネーブ在住早1年半、私の2人の子供もこちらの学校生活に溶け込んできました。当地の公立学校教育システムは、日本と異なる部分も多くあり、義務教育過程が子供たちの将来の道を決める大きなターニングポイントとなっています。本稿では、スイスの教育制度の特徴についてスポットを当ててみたいと思います。

### スイスの義務教育制度

スイスでは、義務教育の年数・開始年齢や始業・終業時期などは全国統一のものがありますが、国家レベルで教育制度を管轄する省庁は存在しません。各州が独自の

学校教育法を制定し、市町村が同法に基づき、その地域の文化や言語に適応した教育方針を立てて公立学校を運営しています。スイスの義務教育期間は11年間となり、日本より2年早い満4歳(幼稚園年中に相当)から義務教育が始まります。

ジュネーブ州の場合(図表)、4歳から8歳まで(小学校低学年)家庭から学校生活への順応に重点が置かれ、簡単なフランス語や算数、工作やお絵かき、歌や体育などが中心の授業で、自動的に進級します。8歳から12歳までの小学校中・高学年では本格的な授業が行われ、フランス語、算数、歴史、地理、理科、体育、音楽に加え、5年生(日本の小学3年生)からドイツ語、7年生(日本の小学5年生)から英語を学び、宿題の量も増

えています。また、5年生から学習評価を半期ごとにつけられ、成績によっては留年や飛び級も行われます。中学校に進級すると、8年生時のフランス語と算数の成績によってクラス分けが行われます。6段階評価のうちすべての項目で4ポイント以上の評価を得ると、高校進学クラスに進級し、3・5ポイント以上で商業学校・一般教養学校進学クラス、3ポイント以上で卒業後の職業訓練・就職クラスとなります。中学校では学習態度や成績によってクラス間を移動することもしばしばあるようですが、大学進学を目指す子供達は、落第しないように小学校高学年あたりから遊ぶ暇もないくらい勉強に励んでいるようです。子供達が将来どのみちを選択するにせよ、スイスでは義務教育期間中に職業観を養っておくこと

えています。また、5年生から学習評価を半期ごとにつけられ、成績によっては留年や飛び級も行われます。中学校に進級すると、8年生時のフランス語と算数の成績によってクラス分けが行われます。6段階評価のうちすべての項目で4ポイント以上の評価を得ると、高校進学クラスに進級し、3・5ポイント以上で商業学校・一般教養学校進学クラス、3ポイント以上で卒業後の職業訓練・就職クラスとなります。中学校では学習態度や成績によってクラス間を移動することもしばしばあるようですが、大学進学を目指す子供達は、落第しないように小学校高学年あたりから遊ぶ暇もないくらい勉強に励んでいるようです。子供達が将来どのみちを選択するにせよ、スイスでは義務教育期間中に職業観を養っておくこと

(図表) ジュネーブ州の義務教育制度

教育区分	初等教育								中等教育				
	小学校低学年： 学習活動への順応期間				小学校中・高学年： 学習評価期間 (フランス語、算数、歴史、地理、 理科、体育、音楽、ドイツ語など)				中学校： 進路課程の期間 (8年生の成績と面談に より3つにクラス分け)			義務教育後の進路： 高校(4年制) 一般教養学校 (3～4年制) 職業訓練学校 (3～4年制) 商業学校 (2～4年制)	
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	11年生		
日本	幼稚園 年中	幼稚園 年長	小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生		
年齢	4-5歳	5-6歳	6-7歳	7-8歳	8-9歳	9-10歳	10-11歳	11-12歳	12-13歳	13-14歳	14-15歳	15歳～19/20歳	
教育期間	義務教育期間											義務教育終了後	



8歳の息子と4歳の娘が通う小学校。  
朝の始業時間前に、学年毎に生徒たちが集まって先生を待っている風景

が求められます。

## 義務教育終了後の進路

義務教育課程を終えると、ほぼすべての生徒が進むべき道を決めます。高校に進学して大学入学を目指す生徒が最近増えているようですが、中学卒業後、約7割の若者は職業訓練の道に進み、自分に合う職種で資格と能力を実践的に身につけ、職人となっていきます。ちなみにあるウェブサイトの情報に掲載され

ていた連邦統計局2008年の発表では、職業訓練を終了した労働者（フルタイム）の賃金レベルは全国平均で月5418フラン（約47万円）、連邦および州立大卒業者の賃金レベルは月8132フラン（約70万円）となっています。最低賃金制度の存在しないスイスの貧困ラインは月2400フラン（約21万円）と言われており、職業訓練を修了して就職できれば、きちんとした生活ができていける社会システムが形成されていると感じています。

大学進学者の場合は、高校卒業後も厳しい勉強生活が待ち構えています。一般的にスイスの大学生は週60時間くらい勉強するといわれ、バーンアウト・シンドローム（燃え尽き症候群）で脱落していく学生も少なくありません。一方で、スイスの大学は国際的に競争力が高い割には学費が安いので、外国人留学生も多く在籍しています。ジュネーブ州立大学の場合、スイス人、外国人問わず、学費は年間たったの1000フラン（約9万円弱）です。どのような

所得環境の家庭に育ったとしても勉強を頑張れば誰でも大学に進学できるシステムになっているのです。数々の難関をクリアして大学を卒業できれば、専門分野の知識のほか、（義務教育段階で学んできた）3カ国語以上を自由に操れる言語能力も備わっている場合が多いため、世界中で仕事を探すことも可能です。教育の機会を平等に提供し、職業訓練と大学進学のとちらの道に進んでも、しっかりとしたエンプロイアビリティを身につけさせるスイスの教育制度は、日本としても学ぶ部分が多いと思います。

## 学校生活・私の息子の場合

私の8歳の息子は現在5年生（日本の小学3年生に相当）で、学校と勉強で多忙を極めています。月、火、木、金は近所の公立小学校に通い、同校が休みの水曜日は、日本の教育制度に基づいて授業を行っている日本語補習校で授業を受けています。5年生からは公立小学校の宿題の量も増え、加えて、日本語補習校の宿題は、日本の公立小学校の学習量に沿ったかたちで1週間分です。授業についていくためのフランス語の勉強、フランス語での宿題、日本

語補習校の宿題、時々だされるドイツ語の宿題、3歳から続けているピアノの練習、などなど学校から帰ったら毎日2〜3時間、さらに土日のいずれか半日から終日を費やし、ようやくすべてをこなせるといった具合です。息子がくじけず努力しているよう、家庭内での親の役割・責任の重要性を実感していますが、一方でさすがは子供、泣きながらもすぐに順応してしまいます。最近では息子から、ポケモンのフランス語版のカードで対戦を求められ、こちらがあたふたしてしまう始末です。



松崎 寛 まつざき かん

1998年IMF-FJCに入局。国際局政策局で主任として産業政策、環境政策の立案をはじめ海外労働紛争防止ツールの作成などに活躍。2010年8月1日から家族同伴でIMF本部に赴任。現在の担当役職は、産業政策・多国籍企業政策グループの造船部門担当部長および事務・技術職部門担当部長。